

本時のねらい

・昆虫は食べ物によって、口の形が違うことに気づく。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・ロイロノートのシンキングツールを活用して、思考の整理を行い、口の形の違いと共通点を視覚的に仕分ける作業を行うことができる。
・NHK for School『マイクロワールド』を視聴することで、それぞれの昆虫の口の形や食べるときの口の力について知ることができる。
・ロイロノートのシンキングツールを活用して、NHK for School『ものすごい図鑑』を参照しながら、オリジナル図鑑を作成することができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Apple TV ・大型モニター ・学習支援アプリ（ロイロノート） ・NHK for School『マイクロワールド』『ものすごい図鑑』

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ ・アゲハチョウの産卵の様子を確認することで、幼虫・成虫の口の形の違いを知る。 「こん虫によって、どうして口の形がちがうのだろう。」 ・幼虫の口の形を確認し、成虫の口の形を予想する。 【写真1】	・ロイロノートで事前に作成したアゲハチョウの成虫と幼虫の写真を配付することで、口の形の違いをじっくり観察することができる。 ・ロイロノートで事前作成した作業カードを配付し、アゲハチョウの成虫の口の形を予想しながら描かせる。
展開 (25分)	○口の形が違う理由を理解する。 ・食べ物の違いによって、口の形が違うことを認識する。 「こん虫は、食べ物によって、口の形がちがう。」 ・ほかの昆虫の口の形を整理する。 ・「食べ物」が同じでも、「口の力」が異なっていることを知る。 【写真2】	・ロイロノートで事前作成したカードにまとめを記入させることで、食べ物によって口の形が異なることを理解させる。 ・シンキングツールで作成した作業カードを用い、それぞれの昆虫の「食べ物」「どんな力」に着目させ、まとめる。 ・NHK for School『マイクロワールド』を視聴し、理解を深める。
まとめ (10分)	○昆虫の口の形図かんを作成する。 ・「昆虫」「食べ物」「どんな力」に着目し、まとめる。 「こん虫 口の形 図かんを作ろう」 ・次時に、作成の続きを行うことを伝える。 【写真3】	・シンキングツールで作成した図かんカードにまとめさせることで、全ての児童が見やすく、項目を意識して制作できる。 ・NHK for School『ものすごい図鑑』や書籍などから情報収集することで、昆虫への興味・関心を高めることができる。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】アゲハチョウの成虫の口の形を予想し、描きこんでいる場面



【写真2】昆虫の食べ物・どんな力かを考えながら口の形について考えている場面



【写真3】NHK for School『ものすごい図鑑』を活用して、口の形図かんの素材を集めている場面

児童生徒の反応や変容

・ロイロノートのカードに予想図を書き込み、提出させることで、児童全体でそれぞれの考えを共有することができた。
・シンキングツールを活用することで情報を整理しやすくなり、昆虫の口と食べ物の関係性を理解することができた。
・板書やシンキングツールで整理した情報を、動画 NHK for School『マイクロワールド』を視聴することで、理解をより深めることができた。
・NHK for School『ものすごい図鑑』や書籍などを活用することで、児童が意欲的に活動でき、昆虫への興味・関心を高めることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・シンキングツールの活用により、児童が自ら情報を整理することができた。高度な使い方をしなくても、様々な場面で積極的にシンキングツールを活用することが、児童の学びを深めることに繋がると実感した。
・NHK for School『ものすごい図鑑』を活用することで、細かいところを視覚的にとらえることができた。昆虫の口の特徴が紹介されている書籍も併せて活用することで、デジタルとアナログ双方でアプローチすることができた。